

7) ブッドレア＝草藤空木

ブッドレアはフジウツギ科のクサフジウツギで、高さ 2m 程の落葉低木である。花は小さな花の集まった穂状の花序で芳香がある。原産地は中国西部で、北アメリカや北アフリカにも自生し、世界では約 100 種が知られている。花色は白、ピンク、淡紅色、濃桃色、紫色、それに黄色、オレンジなどと豊富である。ブッドレアの仲間は主に熱帯地方に分布するものの、ダヴィデー種は耐寒性も強く、本州以西の平地であれば路地で冬を越すことができる。このため切り花用としても栽培されており、一般家庭の庭などにもよく植えられている。学名は『*Buddleia davidii*』で、属名はイギリス人の牧師でもあり、植物学者でもあったアダム・バットル(Adam Buddle)氏の功績を讃えてつけられたものである。彼はイギリスに自生する植物の標本を膨大な資料として残し、これらはすべて大英博物館に寄贈され、後世の植物の研究に多大な影響を与えた。しかし残念なことにこの植物とバットル氏との関わりはなく、彼の業績に敬意を表しただけのことになっている。和名の由来は花穂がノボリフジの様な形になるため、別称としては『酔魚草』などともいわれている。日本に見られるものとしては、フジウツギのほかにウラジロフジウツギがあり、後者は葉の裏が白いところからすぐに判別できる。また葉を摺り潰した汁にはサポニンを多く含んでおり、エゴの木と同じように毒がある。これを川などに流すと魚が動けなくなり、そこを捕まえる漁法も知られている。これが『酔魚草』といわれる所以で、沖縄や奄美諸島などでは、つい最近までこの漁が行なわれていた。

沖縄で古くから栽培されているトウフジウツギという種類は、もとはといえば中国原産のもので、リウマチの薬として用いられており、花は衣類などを染める染料に、また葉はバターなどを着色するときにも用いられている。

一方イギリスではブッドレアのことを『butterfly bush』とか『orange-eye』などと呼んでいる。後者の由来ははっきりしないが、前者の由来はこの花には蝶が集まるからである。初夏に咲くウノハナにも蝶が集まることを先に述べたが、ウツギと称する種類の花には何か特別な物質を分泌するとか、我々のまだ知らない秘密が隠されているのかも知れない。夏に発生する蝶でこの花に来ないものはほとんどいない。モンシロチョウやアゲハチョウはもとより、キタテハやヒョウモンチョウ、南の地方であればモンキアゲハやナガサキアゲハ、この花に寄りつかない蝶はコムラサキ、オオムラサキなどの大型で主に樹液に集まるタテハチョウの仲間とヒカゲチョウ、それにゼフィルスの仲間ぐらいであろう。

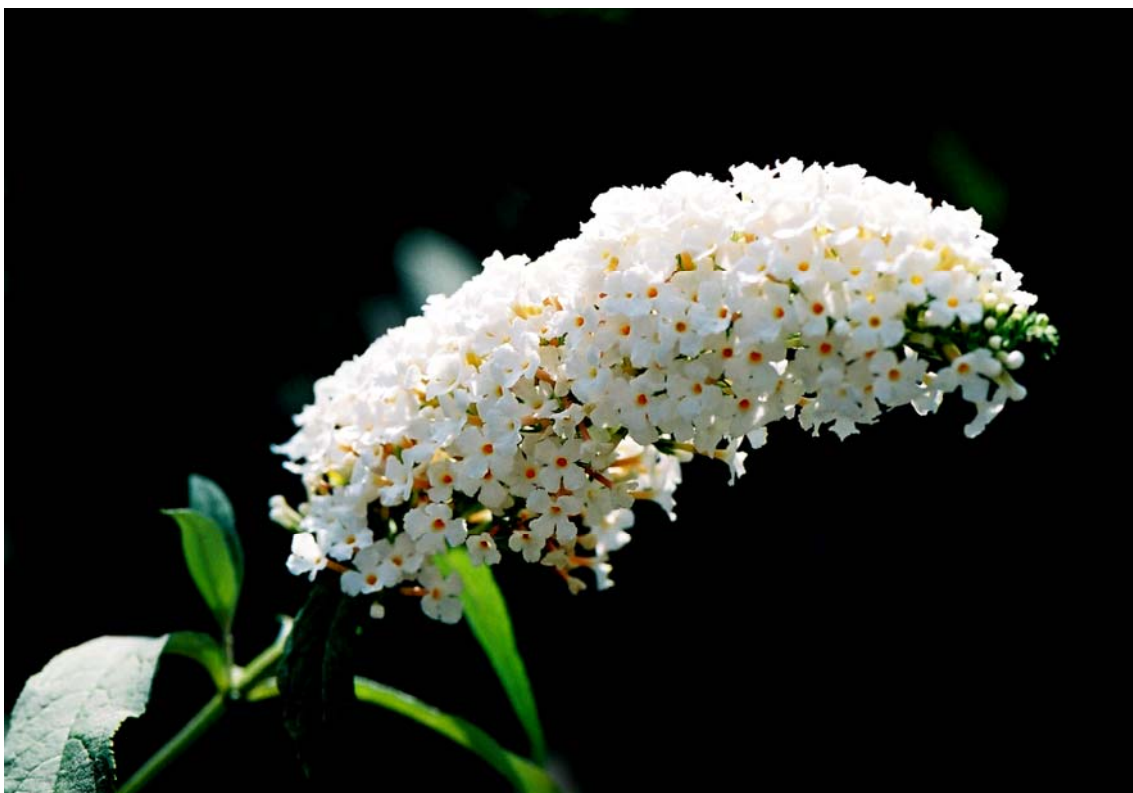
繁殖は挿し木でも実生でも良く、挿し木は簡単に発根してくれるので、てっとりばやい。土は特に選ばないし、陽当たりがよく排水の良いところであれば申し分ない。長い期間花を咲かせるので肥料が切れないように油粕などを化成肥料とともに与えるようにしたい。病虫害には強くこちらの心配はあまりしなくてもよい。



ブッドレアは真夏に咲くために南方系の花と思われがちだが、原産地は中国西部で、北アメリカや北アフリカなどにも自生する。日本でも北海道南部ぐらいなら露地栽培できる（埼玉県蓮田市）



ブッドレアの花は、下の方から咲き始めて先へ先へと夏中、咲き続ける(さいたま市緑区)。



ブッドレアの花色は、白系、ピンク系、紫系だが、それぞれ濃淡があって多様である。日本名は「クサフジウツギ」で、欠点は木の形がそれらしく作りにくい点である(さいたま市緑区)。



ブッドレアの花は北の高冷地でも露地で育てられる(長野県軽井沢町)

[目次に戻る](#)